

木造住宅建築等に関する地域材利用促進セミナー開催

1 概要

平成25年11月18日(月)、大船渡市シーパ
ル大船渡2階大会議室において、当センター、
気仙地方林業振興協議会及び大槌・気仙川流域
森林・林業活性化センターの共催により、地域
材を利活用した産業振興や地域づくりの方向
性などを検討するため、管内の素材生産業者及
び木材加工業者等(36名)を対象に、木造住宅
建築等に関する地域材利用促進セミナーを開
催しました。

2 講演①「住宅業界の現況と木材利用」

まず、一般社団法人木と住まい研究協会小池
透氏に御講演いただき(図1)、木造住宅の現状、
地域の住宅生産体制の構築を目的とした地域
型住宅ブランド化事業の成果と今後の課題な
ど、地域材の利用を促進するための方策につい
て説明していただきました。

3 講演②「都市木造の現状と地域材利用の可能性について」

次に、NPO法人 teamTimberize 副理事長(秋
田公立美術大学准教授)小杉栄次郎氏に御講演
いただきました(図2)。同氏は、東京スカイツ
リーの設計にも関わった経歴をお持ちで、都市
に新しい「木」の建築を作る活動を続けておら
れます。

今回は、NPO法人 teamTimberize の活動の概
要と、都内初の木造5階建て「下馬の集合住宅」
(RC+木造の混構造)の床板に国産材(スギ、
ヒノキ)によるマッシュホルツ※を採用した事
例を中心とした木造の耐火構造建築物につい
て説明していただきました。

4 意見交換及び今後の課題等

講演の後は、質疑応答を行い、地場の中小工
務店が地域の住宅を建築するための支援など
について意見交換を行いました。

平成23年度に約9万㎡の国産材を消費して
いた合板工場が東日本大震災津波で被災し再
建を断念したことにより、当管内の販路の確保
は厳しい状況にあります。今後とも、今回の
ようなセミナーを開催して地域材の利用促進
を図っていく予定としております。



図1 講演①(木と住まい研究協会小池氏)



図2 講演②(NPO法人 teamTimberize 小杉氏)

※ マッシュホルツは、大量の木材を積層して高強度な厚手パ
ネルをつくり、これを壁や床に用いて面構造として建物を組
立てるものです。低質の木材を有効活用でき、居住性に優れ
た高強度の建物を作ることができるマッシュホルツは、地域
材利活用の実現のため大いに期待される技術のひとつです。